



開 会 の 辞

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

会 長 小 池 広 靖 CMA

第39回日本証券アナリスト大会の開会に当たり、主催者を代表し、ご挨拶申し上げます。

「日本証券アナリスト大会」は、日本証券アナリスト協会の「認定アナリスト」であるCMAの役割を、広く社会に認知していただくとともに、CMAの自己研鑽、相互交流を目的として、1986年以来、40年近くにわたって毎年開催されている歴史ある大会です。

今年も多くの方にご参加いただける形で開催できることを大変嬉しく思います。

さて、岸田前総理のイニシアティブによる資産運用立国に向けた取組みが始まり、約1年半が経過しました。この間、新NISA導入による資産形成の普及に向けた大きな動き、益々加速するコーポレートガバナンス改革、証券取引所による株式市場活性化等、成長と分配の好循環に向けた様々な取組みが始まっております。このような変化、市場への期待もあり、今年、株式市場は34年ぶりの史上最高値を更新しました。

このような資本市場の大きな変化の中で、当協会では、今年の4月、「資産運用立国を目指す日本のアセットマネジメント」というテーマで国際セミナーを開催致しました。

石破新政権におきましても、引き続き、政策の柱となる「資産運用立国実現プラン」ですが、このテーマをさらに深掘りをすべく、今年のアナリスト大会のテーマを「資産運用立国とアナリストの役割」といたしました。

「資産運用立国」の実現に向け、企業は資本効率の改善、企業価値の向上を目指し、また、アナリストはエンゲージメントをはじめ、直面する様々なチャレンジにどう立ち向かっていくべきか等の議論を深める機会にいただければと考えております。

記念講演につきましては、お二人の企業経営者をお願いをいたしました。

始めに、三越伊勢丹ホールディングス 取締役代表執行役社長CEOの細谷敏幸様に「百貨店業から個客業への転換」というテーマでご講演いただきます。

続きまして、日本取引所グループ 取締役兼代表執行役グループCEOの山道裕己様より、「日本企業の変革を通じた市場の発展～JPXにおける取組み～」というテーマでご講演いただきます。

記念講演に続くパネル・ディスカッションでは、レオス・キャピタルワークスの三宅一弘様にモデレーターをお願いし、一橋大学大学院教授 加賀谷哲之様、中外製薬 取締役上席執行役員CFO 谷口岩昭様、アウレア・ロータス 代表取締役CEO 柳下裕紀様のお三方をパネリストにお迎えし、「資本効率の改善は可能なのか」とのテーマで議論を展開していただきます。

今回のプログラムが、企業価値の向上、資本市場の一層の発展に繋がれば幸いです。

さて、ここで当協会の近年の取組みを簡単にご紹介いたします。

現在、CMA資格を保有している方は約2万9千名となります。金融機関の職員の方に限らず、多岐にわたる分野でCMAへのニーズが高まっており、多様化するニーズに応えるべく、試験カリキュラムの見直しを行っております。

また、資産形成ビジネスに携わる金融機関の職員の方に向け、新たに「資産形成コンサルタント（ABC）資格試験」の提供を今年3月から開始いたしました。合格者は8月末時点で2,700名に達しており、資産形成ビジネスに向けられた関心の高さがうかがえます。

今年8月からは「金融経済教育推進機構（J-FLEC）」がスタートし、国全体として中立的な立場から金融経済教育を推進する態勢ができました。当協会としても、CMA、プライベートバンカーの「認定アドバイザー」としての参画も含め、貢献して参りたいと考えております。

改めて申すまでもなく、資本市場を取り巻く環境は、不透明かつ変化の激しい状況にあります。こうした変化に柔軟に対応しながら、私どもの社会的使命を果たしていきたいと考えております。

今後とも、皆さまの一層のご協力、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本大会の企画、運営にご尽力をいただいております、村松委員長をはじめ、大会実行委員の方々には、この場をお借りして心からの御礼を申し上げます。

以上をもちまして、開会のご挨拶とさせていただきます。